

「田辺圏域医療と介護の連携を進める会」 第 43 回（通算第 122 回）定例会 会議録

- ◆日 時：令和 2 年 7 月 21 日（火） PM7：05～8：55
- ◆場 所：田辺市民総合センター 1F 機能訓練室
- ◆出席者： 29 名

別紙のとおり

1. 「田辺圏域医療と介護の連携を進める会」定例会について

【19：05～20：55】

19：05～	開 会
19：05～19：15	研修案内
19：15～20：10	研 修 「この季節に増える皮膚トラブルと今から備えるスキンケア」 講師：訪問看護ステーションこもれび 皮膚・排泄ケア認定看護師 小谷 桂子氏
20：10～20：55	意見交換・発表
20：55	閉 会

【研修内容】

●講義内容(概要)

- ・高齢者の皮膚とその特徴
→弾力性の減少・細かいちりめんじわ・皮野と皮溝が不明瞭となり平滑化し、光沢
ドライスキン・表皮と真皮の結合が弱い・外的刺激にもろい
- ・乾燥（ドライスキン）の定義
→乾燥とは表皮の角質層の柔軟性が低下し、角質が硬く、脆くなり、角質水分量が減少した状態
正常皮膚の角質水分量は約 20～30%、ドライスキンでは約 10%以下に。
- ・皮膚の保湿能にかかわる因子
→①皮脂膜（水分を逃がさない） ②天然保湿因子（水分を補う） ③セラミド（水分を保つ）
- ・ドライスキンの対策はこの因子を補うこと。
→モイスチャライザー（水分と結合）効果、エモリエント（被膜をつくる）効果をもった保湿剤
を用いる。保湿剤を塗布する時間が重要！可能であれば入浴後 10 分以内に外用するのが浸透の
面から有利
- ・浸軟皮膚のスキンケア
→過剰な水分が角質細胞内で超過し、ふくらみ、細胞間の結びつきがルーズになる。表皮剥離や細
菌等の侵入が容易になる。撥水剤や被膜剤等のスキンケア用品の活用が有効

- ・この時期に増えるのが真菌感染症
→原因は白癬菌。ケラチンを栄養源にしてヒトからヒトへ感染する。足白癬や爪白癬など抗真菌薬の外用と内服で治療。
- ・スキントラブルの予防
→①皮膚の清潔の保持 ②保湿ケア ③物理的・化学的刺激による外的損傷からの保護

【意見交換】

【意見】

●皮膚について

- ・清潔が重要なのはわかるが、しすぎるのも皮脂を亡くしてしまうので良くない。入浴はどのぐらいの頻度で入るのが一番いいのか気になる。
- ・冬だけでなく、夏場も大事な保湿
- ・病院では表皮剥離させない対応マニュアルがある
- ・とこずれと皮膚の乾燥の関係性はあまりない。最近じょくそうが減ってきている気がする
⇒たぶん減ってきている。福祉の人が介入しているから。誰かが関わることで減らすことができる。
- ・この地域は温泉が多いが、温泉は皮膚を刺激するので、よくないのかも。
- ・爪白癬はどこへ受診すればいいのか？
⇒皮膚科
- ・体臭と清潔ケアの関係
⇒石鹸はしっかり泡立てて！＋しっかり脂をとることが体臭予防に。

●訪問看護ステーションに期待すること

- ・在宅のガン末期のケアで心強いし、ありがたい存在。急変時の相談先
- ・事業所がたくさんあるので、選択肢が多くてうれしい
- ・若い担い手（看護師）不足の現実も
- ・看護師の働き方の選択肢に。いつまでも現場にいたいという思い
- ・精神分野に強いステーションがほしい
- ・夜間や緊急時の対応をしてくれるので安心。
- ・看取りで大活躍。ただ、受ける事業所にも覚悟がいる
- ・得意分野がわかるとケアマネも利用者に紹介しやすい
- ・かかりつけ医との連携の重視
- ・本人のやる気スイッチを見つけるようなリハビリを

【次回の定例会】

→以下の日程で実施する。

日時：令和2年8月18日（火） 午後7時～

場所：田辺市民総合センター 1F 機能訓練室

内容：未定